

教育インストラクターの活動 ～シミュレーションを行いました！～

平成23年度・24年度に認定を受けた教育インストラクター8名が本学看護学生を対象にシミュレーションを行いました。シナリオ作りから行い、担当教員にアドバイスを受け、何度も打合せ・練習を重ね作り上げました。小児と成人のシナリオを作成しました。小児を担当されたY看護師、成人を担当されたT副看護師長にお話を伺いました。次回の活動日は、12月18日(水)8:00～16:45で、まとめを行います。

小児

【目標】

事故を起こさないための環境整備ができる

【事例】

1歳6ヶ月、点滴留置中の肺炎患児、入院3日目、母付き添いの

【課題】

実習生のあなたは朝の挨拶のために担当患者のベッドにいきます。患者の環境や状況に問題があれば対応してください。



成人

【目標】

①患者の背景(高齢・誤嚥・左片側不全麻痺)を理解したうえで食事介助ができる

②患者の状況を判断し安全な食事環境を整えることができる

【事例】

80歳、左片側不全麻痺、誤嚥性肺炎の患者

【課題】

実習生のあなたは、受持ち患者さんに、これから食事を配膳し、食事環境を整えてください。



Y看護師(こども西)の感想

今回のシミュレーションで、学生さんに、看護の基本である「気づくこと」を伝えたいと思い、取り組みました。患者さんにとって、病室は生活空間であり、患者さんにとっていい環境とは何か、改善できることはないか、様々な視点があることを知ってほしいと思いました。危険や事故を防止し、患者さんや面会に来られるご家族が気持ちいい環境を整えられるようになってほしいと思います。

シミュレーションを計画から行う中で、シナリオ作成が難しかったです。学生さんを対象にするので、臨床現場でありえる状況で、さらに教育的内容になるよう担当教員よりアドバイスをいただき、何度も考え直しました。また、シミュレーション中は、ファシリテート、デブリーフィングを臨機応変に対応することができず、難しいと思いました。

今回の経験は、自分の勉強になりました。達成感より、もっとこうすればよかったと反省することが多く、もう一度、今あるシナリオを応用してやってみたいです。今後も大切なことを伝えられるように経験を重ねて、学んでいきたいと思っています。

T副看護師長(A7)の感想

シミュレーションの計画から実践までを行うことは初めてだったので戸惑い、学生さんが「学べた」と体感してもらえるか不安がありました。しかし、シミュレーション中の学生さんが生き生きしている姿を見ることができ、臨床現場に近い状況で自分の伝えたかった「ありふれた環境の中、患者さんや周囲環境を見て、気づけることの大切さ」を伝えられたのではないかと思います。

今回、授業の中で学生さんを対象にシミュレーションをさせていただき、大変勉強になりました。

自分の中に「どの点を学んでもらいたい」という強い思いがあったことに気づくことができました。また、病棟で行っていたシミュレーションやOSCEでフィードバックは経験していましたが、デブリーフィングは初めてで、本人に考えさせたり、学んでもらうためには、どのように導くのかということを考えて実施しなければならぬことも学ぶことができました。目的から自分達で考え、シミュレーションを実施したことで、全体を見ることができ、自分の教育インストラクターとしての役割が明らかになりました。

お知らせ

看護研究交流会運営委員の皆様へ

看護研究交流会運営委員の皆様には、1月に入りましたら、役割分担表、看護研究交流会手順を配付させていただきます。

ベーシックレベルⅢOSCE

47名がベーシックレベルⅢOSCEを受験しました。ご協力いただきました部署の皆様、運営にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

25年度看護研究交流会発表部署の方へ

提出物：①抄録②論文③発表形式の希望(口演または示説)④看護研究紹介文

*詳細については看護研究ガイド(電子カルテ掲示板→各診療科・中央部門 資料→看護部)を参照してください。

提出先：教育担当副看護部長(メールに添付)

締切：11月29日(金)

*発表形式は、締切後1～2週間での調整を行い、結果を紙面でお知らせいたします。

看護研究交流会前日、口演の部署の方は、リハーサルを行い、示説の部署の方は、ポスターを貼りにきていただきます。

前日、当日の詳細につきましては、1月にお知らせします。